

# 虫刺されの「痛み」「かゆみ」

アシサイを優しく感じ、梅雨明けが待ち遠しい頃となりました。いかがお過ごしでしょうか？

以前よりマスク生活も緩み、屋外での活動も増えてきました。薬局ではこの時期から皮膚疾患の患者さまが多くなります。

皮膚症状で多いのは「虫刺され」。その症状は

「痛み」と「かゆみ」の大きく二つです。

「痛み」は刺された時の刺激と、皮膚に注入された物の作用によつて起こります。

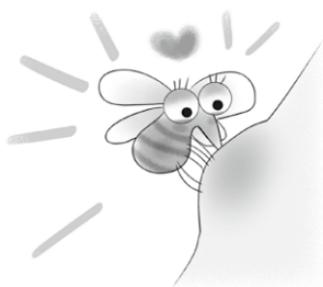
「かゆみ」は虫の唾液、毒素が皮膚に注入されたことによるアレルギー反応です。

皆さんが蚊に刺された時の腫れやかゆみも、アレルギー反応の一つです。これには、すぐに起こる反応とゆっくり起こる反応の2種類があります。

すぐに起こる反応は赤みやかゆみ、じんましんなどが現れ、数時間で症状が和らぎます。

ゆっくり起こる反応は、1、2日後にかゆみなどの症状が現れ、数日間続きます。

また虫刺されによるアレルギー反応は、刺された回数で変化します。蜂などに何度も刺されたこ



とがある方は注意が必要です。

治療は軽い症状であれば抗ヒスタミンやステロイドなどの塗り薬、重い場合には抗アレルギーの飲み薬を使用するとよいでしょう。

チャドクガや蜂、ムカデに刺された場合は速やかに医療機関への受診をお勧めします。吐き気やじんましんの症状がある場合も同様です。

またマダニは感染症の媒介になることもあるため、自身で排除せずにそのまま受診してください。

夏場、森林や河川の近くなどに行くときは肌の露出をできるだけ少なくし、虫よけ剤なども利用しましょう。皆さまが暑い夏を迎えられますように。

(薬剤師 西 美香)